



5月度ツアー

「上海」「ホーチミン・ハノイ」商談会

今号では、5月17、18日に催行した「上海商談会」、5月21～24日に催行した「ホーチミン・ハノイ商談会」の2カ所の海外ツアーをレポートする。

上海「国分中国グループ合同展示商談会」

5月17日(水)16時より、日本食品卸を行っている「深圳市一番食品有限公司」の副經理・尾園拓哉氏とミーティング。今ツアーは、翌18日に開催される恒例の「2017年度国分中国グループ合同展示商談会」に合わせて上海入りし、今年4月に食品卸大手である国分グループの傘下に入った同社と、下記のテーマについて改めて打ち合わせた。

- (1) 今後の国分（一番食品）と実戦会会員企業との協業について
- (2) 提案の手順について
- (3) 国分グループ本社（日本橋）での商談会について

各テーマの決定事項としては、まず国分・海外統括部・中原愛弓氏に書面資料にて商品提案をし、国分と一番食品との間で行われる週1回のTV会議を通して検討してもらう。その上で、一番食品の總經理を交えて、東京都中央区日本橋の国分グループ本社で商談会を行うこととした。

ちなみに、これを管轄する国分グループ本社の組織の長は、海外統括部・貿易事業部長・兼営業課長・媚山活也氏で、国際部・チームリーダーの稲葉治氏と前述の中原氏が現場を仕切っている。今回は、実戦会会員企業9社分の資料を持参し、後日東京で中原氏と打ち合わせることにした。

翌5月18日(木)10時より、上海市国際農業中心展示館で開催の国分グループ本社主催「2017年度国分中国グループ合同展示商談会」を視察。現在国分は、一番食品をはじめとする卸会社5社、物流会社2社、ワイン輸入会社1社の計8社で、中国における食品流通事業を展開している。物流に関しても、日本と同レベルの温度帯物流を実現し、日本商品の取扱量拡大を目指して、毎年、合同展示商談会を開催している。

この展示会は、日本の技術を生かした「安心・安全・美味しい」高品質な食品を中国全土の小売業・飲食業・代理店などに案内することを目的としており、今年は日本からのメーカー企業60社、中国国内からのメーカー50社以上が参加した(図1参照)。

午後は、旧知のオブシン社長・鈴木真一郎氏とランチミーティング。同氏とは、先般のWAOJEアセアン世界大会で久しぶりに会い、上海で再会することとなった。同氏の主力業務はEC戦略の立案・支援で、日本の大手企業の中国進出におけるインバウンド送客の仕組みづくりとして、QRコードなどのツール運用による広告手法を手掛けている。資生堂、マツキヨ、イオンなど大手企業から中小企業まで支援しており、着実に成功実績を積み上げている起業